

KOGA IDOL

今月の古河っ子



伏木充咲 くん
(平成30年11月生まれ・下山町)
食べることが大好き！元気に大きく育ってね。
(父：良道、母：香織)

忍田日向 くん
(平成31年1月生まれ・松並)
食べるの大好き♡優しいお兄ちゃんになってね♡
(父：貴司、母：智晶)

島崎真衣 ちゃん(左) 真伍 くん(中央)
(令和元年9月生まれ 平成28年10月生まれ・古河)
公園で遊ぶ3人♪いつまでも仲良しでいてね!!
(父：知之、母：仁美)

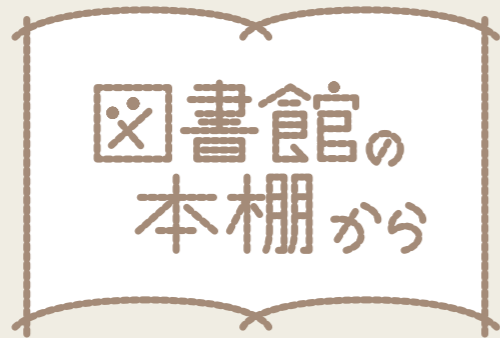
多根愛織 ちゃん
(平成31年4月生まれ・大堤)
歌やおしゃれが大好き！元気にのびのびと育ってね♪
(父：信行、母：くみ)

お子さんの写真を募集中！<対象> 0~3歳の市内在住のお子さん <応募方法> メール・電話で受付中。メールのタイトルを「今月の古河っ子応募」とし、本文に「お子さんの氏名(ふりがな)・生年月日・父母の氏名・住所・電話番号」を明記し、city.pr@city.ibaraki-koga.lg.jp(☎シティブロモーション課)へ申し込みください♪



【一般/医学】
簡単手作り石けん、ハンドジェル、ハンド&マスクスプレー
生活の木 著
アロマセラピーの専門店「生活の木」による、アロマクラフトのレシピ集。石けん、アルコールジェルなどの清潔雑貨から、アロマストーン、キャンドルといった生活雑貨まで、作り方について写真を交えて紹介します。
出版社…主婦の友社

【児童/読み物】
ぼくのあいぼうはカモノハシ
ミヒャエル・エングラ 作
オーストラリアにはどうやって行くの？バスに乗る？ポート？それとも…。ドイツの男の子ルースと、人間のことばをしゃべるカモノハシのとばけたやりとりが楽しい、ゆかいな冒険物語。
出版社…徳間書店



【一般/小説】
朝井まかて 著
何不自由なく暮らした少年時代、父の死という大きな喪失を抱えパリへ遊学した青年時代、戦後の困窮から心機一転、書店を開き文筆家の道へ。森鷗外の末子、森類の愛と苦悩に満ちた生涯を描く。『小説すばる』掲載に加筆修正。
出版社…集英社

【絵本】
こんたのさかなつり
田中友佳子 作・絵
今日は、くまおじさんと釣りに行く日。こぎつねのこんたは、弟のこんきちとはりきって出発しますが、こんきちの帽子が風でとばされてしまいました。追いかけていくと、そこは暗い森のなかで…。こんたの絵本第3弾。
出版社…徳間書店

古河歴史見聞録

周縁に現れる鬼・病をもたらす鬼

牛鬼退治の家

10年ほど前のことですが、徳島県で、河童の妙薬を作っていたという家を訪ねてお話を聞いていた。「うちの先祖は牛鬼を退治したんだ」と。ほほう、と聞いていると「その頭蓋骨をあの前掲げていたんだけど、気味悪いって言われて外したんだ」と、門を指さされた。……えっ、あるの？

鬼の行列 百鬼夜行
日本では、古くから鬼の目撃情報がありました。平安時代には、大勢の鬼が夜のまちへ繰り出すこともあり、これと出会った人もいたようです。この行列を「百鬼夜行」といい、その姿は、非業な死に方をした人たちの怨霊であったり、時代が下るとち捨てられた道具たちの化身であったり、鬼も

帰りに際に自宅に祀っている祠に案内され「ここにあるよ」と。「どんな頭蓋骨ですか？」と聞くやいなや、「頭に角がついていて」と躊躇なく祠の扉を開けてくれました……。



▲『暁斎百鬼画談』(部分)



『暁斎略画』(部分)▶

一様ではなかったようです。とはいえ、夜は鬼たちの闊歩する時間帯でもあったのです。古河出身の河鍋暁斎も、百物語に始まり、明け方とともに百鬼が逃げ去る『暁斎百鬼画談』を描いています。登場するキャラクターは赤鬼・青鬼もあれば道具もあり、ぬらりひよんのような妖怪もいて、実にさまざまです。いずれにしても、百鬼とはいえず、その姿や形は固定化されたものではないのかもしれませんが。

非業の魂が鬼と化す

それにしても鬼が、死した魂、それも非業な死に方をした怨霊となると、少々厄介です。大概の世に未練を残したり、恨みがある「うらめしや〜」なんてことになる。これが社会全体へとなると、多くの人々を悩ます天災や病気の原因に。

鬼に出会わず鬼を払う

とりわけ、疫病は鬼神・疫鬼、すなわち鬼によるものと古くから考えられていたようです。『万葉集』には、ある人物が長崎県の壱岐島まで来て、疫病で亡くなったときの歌に「忽かに鬼病に遇ひて死去りし時に作る歌」と添え、鬼による病に冒された旨を書いています。

「一つの目の鬼が夜になると家内を覗ひに来るのである」というくだりがある。また、鎌倉時代の絵巻物には、病人のいる家を屋根の上から覗いている疫鬼の姿。病をもたらすとされる鬼は、私たちの生活領域の周縁に現れては外から覗き込み、百鬼夜行のように生活時間帯の隙間に潜り込んできます。

うっかり夜の街をぶらぶらしていたら、百鬼に出会っちゃう。知らぬ間に見えない鬼を持ち帰ってしまうなんてことも。節分で「鬼は外」と鬼を払うのは、もともと鬼は外にいるものだから。心に隙があればいつでも入ろうとうかがっているのです。ついでだから家庭円満のためにもう一度言っておきましょう。「鬼は家の中にはいません(たぶん)」

古河歴史博物館学芸員 立石尚之